

STUDENT'S MANUAL

学生便覧 2026

O C T



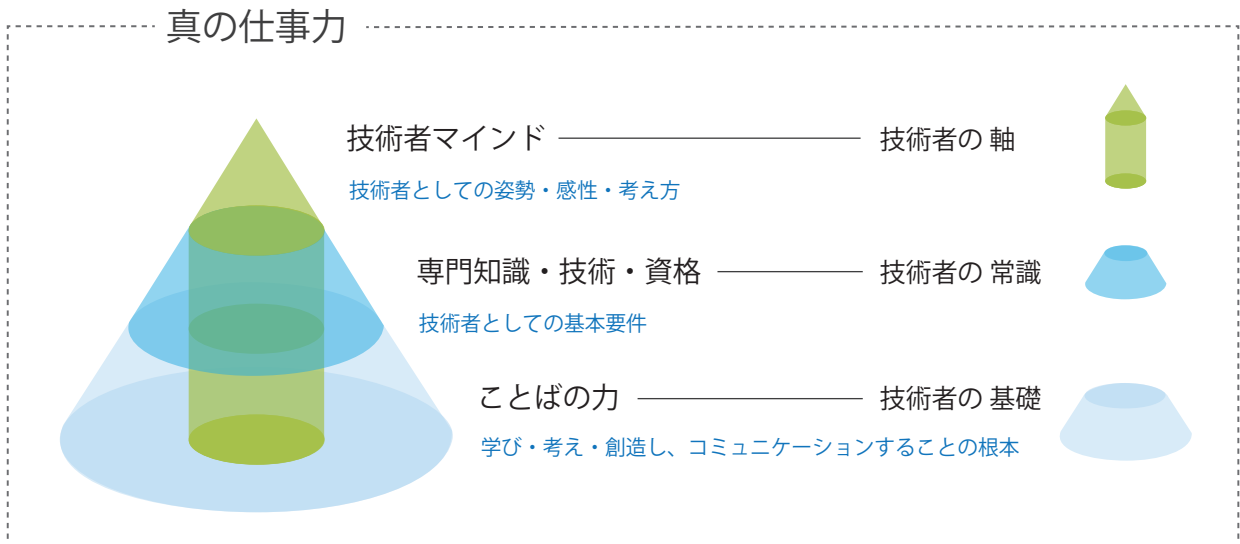
大阪工業技術専門学校
OSAKA COLLEGE OF TECHNOLOGY

【抄録版】

本紙は、大阪工業技術専門学校の2026年度『学生便覧』より諸方針・諸規定を抄録したものである。

教育目的

本校は、専門知識・技術の修得、資格の取得はもちろんのこと、学び・考え・創造し・コミュニケーションすることの根本である「ことばの力」を強化し、それを基礎として技術者の姿勢・感性・考え方である「技術者マインド」を自身の軸として身につけた技術者を育成することを目的とする。本校では、そのような技術者を「真の仕事力」をそなえた技術者と定める。



ディプロマ・ポリシー（卒業の認定に関する方針）

本校では、「真の仕事力」に関わる以下の能力を身につけ、学則で定める修業年限以上在籍し、所定の単位を修得した者に対して卒業を認定する。

技術者マインド

「技術者マインド」とは、優秀な技術者が持っている基本的な姿勢や感性、考え方などを総称する。それは頭だけでなく身体もつかいながら考え、人やモノとの関わり方などを心得た、広く技術者として必要なマインドといえ、これは技術者としてだけでなく、社会で活躍するためにも必要な要件である。

1. 技術者の姿勢

専門知識や技術の習得だけでなく、整理整頓・モノをきっちりそろえる習慣、モノを丁寧に扱うこと、時間厳守・納期を守ること、ルール・マナーを守ることなどの技術者としての基本姿勢を身につけている。またそうした技術者の姿勢が大切であると理解している。

2. 自分を知る

自分を知ること、学ぶべきこと、鍛えるべきことや進路など自分の将来像や目標をリアルに描くことができる（自己分析マップ）。また自分の感性や思考・行動を正確に知ることは、人の気持ちや考え方を理解する基点であることを理解している。

3. 相手を知る

人のためにモノやコトを生み出すために、価値観や感性の違う様々な人たちの考えや要望を知ろうとする姿勢が身につけており、相手を知り・共感することができなければ良いモノやコトはつくれないことを理解している。

4. 世界を知る

専門知識や技術を単純に知るだけでなく、モノの性質や可能性、コトの意義や背景、本質を知り、広く世界のしくみを知る姿勢が身につけている。そうした姿勢から、将来の職業と関わる業界の姿を思い込みでなくリアリティをもって知ること（業界マップ）が、より良い進路選択になることを理解している。

5. 頭と身体で創造する

頭だけで考えてもより良い創造はできないことを理解しており、しっかりとした知識・技術を基礎に、創造する環境を整え、頭だけでなく身体もつかいながら試行錯誤し、人とのコミュニケーションからアイデアを形にできることを理解している。

ことばの力

思考力・判断力・創造力・プレゼンテーション力・コミュニケーション力などの根本には、「ことばの力」があることを理解しており、以下の「ことばの力」の基本を身につけている。さらに今後も「ことばの力」を研鑽していく意欲がある。

1. 基本的なことばの力（基本文書の読解、正しい慣用による作文、基本語彙力）
2. 専門知識・技術を学ぶためのことばの力（専門の語彙力、専門書の読解力）
3. 社会人として通用することばの力（ビジネス文書の読み書き、ビジネス会話）
4. 考えるためのことばの力（豊かな語彙力、文章の要点・意図の把握力、自己内対話）
5. コミュニケーションのことばの力（自分の考えの表現、相手の考えの理解、対話力）
6. 「ことばにできることで物事を理解できること」を理解（「ことばの力」の理解）

専門知識・技術・資格

「ことばの力」を基礎に、「技術者マインド」を軸に、技術者にとって必要な知識・技術の基本を身につけている。知識・技術を学ぶこと、資格を取得することはプロの技術者としてはあたりまえと考えており、最新の知識・技術にも常に興味を持ち、生涯にわたって学び続ける姿勢をもっている。

1. 専門知識

各専門分野で必要な知識の修得につとめており、知識が単なる情報の集積でなく自分自身のモノの考え方として活用され、知識のネットワークを今後も広げていく姿勢をもっている。

2. 技術

各専門分野で必要な技術の修得につとめており、その研鑽を続ける姿勢をもっている。それと同時に技術に対して常に批判的な視点を持っており、技術者としての必要な倫理観をもっている。

3. 資格

各専門分野で必要な資格の取得につとめている。しかし、資格取得のみを目的とせず、資格取得を通して上記の意味で知識・技術の強化につとめる姿勢をもっている。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成及び実施に関する方針）

本校では、「ディプロマ・ポリシー」に定めた能力を身につけるため、次のような編成方針、実施方針および成績評価基準に基づいて教育を実施する。

編成方針

1. 各分野の専門知識・技術を効果的に学べると共に、社会に貢献できる人間性を技術者教育を通して涵養するように「ディプロマ・ポリシー」に定めた「真の仕事力」の理念に合致する体系的な教育課程を編成する。
2. 教育課程を編成するに当たっては、全学科で技術者としての基本的かつ汎用的な知識・技術、数理能力、論理推定力、その他必要な力を修得できるように配慮して、科目配置を行い、授業計画を策定する。
3. 教育課程を編成するに当たっては、最新の知識・技術及び業界の動向や未来像に注視し、業界で求められる人材像を反映した授業計画を策定する。
4. 「ディプロマ・ポリシー」に定めた能力をより深く身につけるために職業実践の現場での学びを重視し、インターンシップや実務経験のある教員を中心とした講義・実習などのプログラムを計画する。

実施方針

1. 「ディプロマ・ポリシー」に定めた能力が、教育課程の中でどのように育成されるかを、科目毎にシラバスで「ディプロマ・ポリシー」で定められた能力と科目との対応を示し、それらを修得する方法をわかりやすく説明する。
2. 自ら学ぶ姿勢を育てるために、授業時間での学習はもちろんのこと、授業時間外での予習・復習を自主的に行わせ、教員への質問や授業支援システム（moodle）の利用を積極的に行わせる。
3. 成績評価は、各科目のシラバスに掲げられた評価基準を厳格に守り、評価の客観性・公平性をもったものとする。

成績評価基準

本校では、次のような成績評価基準を定めている。

1. 学期末における成績評価は、シラバスに示す評価方法に基づいて実施する。
2. 成績は100点法により採点し、評価は以下の「秀」・「優」・「良」・「可」・「不可」の5段階とし、成績は評価に応じて次表のとおりとする。ただし、卒業制作及びキャリアデザインにあつては「合」又は「否」を、特別講座及び企業研修にあつては認定された場合のみ「認定」と判定する。

秀（100～90点）

優（89～80点）

良（79～70点）

可（69～60点）

不可（59～0点）

学科の教育方針

本校の建学の精神、教育目的、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに則り、各学科はその専門性に応じた教育方針を策定する。以下、各学科の教育方針を教育目的とカリキュラム編成に分けて記す。

ロボット・機械学科

1. 教育目的

ロボット・機械学科は、ロボット・機械に関わる工業技術者として必要な知識・技術をバランスよく学びながら、段階を追って自身の専門性を定め、業界で活躍しその発展に貢献できる人材の育成を目的とする。本学科は、明治 28（1895）年に機械製図の学校として創設された製図夜学館の本流であり、その誇りと精神を受け継ぎながら常に最新の工業技術教育を行ってきた。今日、分野横断的に技術融合は広範に進み、益々その流れは加速し、技術者に要求される専門領域も広がっている。そのような要求に応えるために、機械だけでなく電気・電子・情報など広い領域を学び、それを深める中で知識・技術だけでなく「真の仕事力」を養い、主体的に意思決定と行動ができる人材となるよう教育を行う。

2. カリキュラム編成

ロボット・機械学科では、卒業認定及び専門士の称号授与のために、必修科目、選択必修科目及び選択科目に加えて、必要とする科目を体系的に編成し、科目に応じて授業形態を講義、実習に分ける。選択科目は、機械・電気・電子・プログラム等、あらゆる工業技術者に必要な専門基礎知識の修得を目指す。必修科目は、実習を通して機械設計や製作等の知識・技術の修得を目指す。選択必修科目は、1 年次後期からは、必修科目、選択科目に加えて、選択必修科目からロボット機械専攻と電気機械専攻の 2 専攻のいずれかを選択し、それぞれの専門の基礎を学ぶ。さらに 2 年次からはロボットコース、機械技能コース、電気コースの 3 コースに分かれ、さらに専門性を深める。2 年次後期には各専攻領域に応じた卒業制作を行い 2 年間の学びの集大成とする。必修科目と選択必修科目は、知識・技術の修得だけでなく「技術者マインド」、「ことばの力」の強化とも関連し、「真の仕事力」を育成する本校の教育目的の軸となるものである。

(I 部) 建築学科

1. 教育目的

建築学科は、建築のプロとして必要な知識・技術をバランスよく学びながら、段階を追って自身の専門性を定め、業界で活躍しその発展に貢献できる人材の育成を目的とする。その実現のために、学びを深める中で知識・技術だけでなく「真の仕事力」を養い、主体的に意思決定と行動ができるよう教育を行う。本学科は昭和 50（1975）年頃より他学科に先駆けて、「真の仕事力」を育成する教育をはじめている。設計製図では、「設計教育を通じて人間教育」のコンセプトのもと、設計の知識・技術だけでなく、プレゼンテーション力やコミュニケーション力・創造力・マネジメント（チーム）力を養う教育を行ってきた。それを広い意味での設計力ととらえ、その大切さを理解し・身につけ・強化しつづける意識を育成してきた。その意識を「設計マインド」とし、現在の「技術者マインド」「真の仕事力」に継承されている。

2. カリキュラム編成

建築学科では、卒業認定及び専門士の称号授与のために、基幹科目及び専門科目に加えて、必要とする科目を体系的に編成し、科目に応じて授業形態を講義、実習に分ける。基幹科目は、建築計画・法規・構造・施工等、あらゆる建築のプロに必要な専門基礎知識の修得を目指す。専門科目は、実習を通して設計や施工等の知識・技術の修得を目指す。専門科目は、必修科目・選択必修科目・選択科目から成り、とりわけ必修

科目である設計製図と建築製図は、知識・技術だけでなく「技術者マインド」、「ことばの力」の強化とも関連し、「真の仕事力」を育成する本校の教育目的の軸となるものである。1年次後期からは、基幹科目、必修科目に加えて、選択必修科目から設計専攻・施工専攻・設備専攻の3専攻の全てを履修し、それぞれの専門の基礎を学ぶ。2年次からは設計専攻（意匠＋構造）・施工専攻（管理＋技術）・設備専攻のいずれかを選択し、さらに専門性を深める。2年次後期には各専攻領域に応じた卒業制作をおこない2年間の学びの集大成とする。

インテリアデザイン学科

1. 教育目的

今日、日本ではフローからストックの時代へと変わり、新築よりもリフォームやリノベーションの需要が高まっておりインテリアデザインもリフォームなどを含めてこれまで以上に幅広い知識と技術が要求されるようになっている。インテリアデザイン学科は、建築およびインテリアデザインのプロとして必要な知識・技術をバランスよく学びながら、段階を追って自身の専門性を定め、業界で活躍しその発展に貢献できる人材の育成を目的とする。その実現のために、学びを深める中で知識・技術だけでなく「真の仕事力」を養い、主体的に意思決定と行動ができるよう教育を行う。

2. カリキュラム編成

インテリアデザイン学科では、卒業認定及び専門士の称号授与のために、基幹科目及び専門科目に加えて、必要とする科目を体系的に編成し、科目に応じて授業形態を講義、実習に分ける。基幹科目は、建築計画・法規・構造・施工等、あらゆる建築のプロに必要な専門基礎知識の修得を目指す。専門科目は、実習を通してインテリアデザイン（インテリアコーディネート・インテリアプランニング・色彩計画等）及び建築設計等の知識・技術の修得を目指す。専門科目は、必修科目・選択科目から成り、とりわけ必修科目である設計製図、建築製図、デザイン基礎実習、スペースデザイン等は、知識・技術だけでなく「技術者マインド」、「ことばの力」の強化とも関連し、「真の仕事力」を育成する本校の教育目的の軸となるものである。専門科目（必修科目・選択科目）では1年次前期から2年次後期まで、インテリアデザインの知識・技術を段階をおってその専門性を深める。2年次後期にはこれまでの学びと関心に応じた卒業制作をおこない2年間の学びの集大成とする。

大工技能学科

1. 教育目的

今日、建築生産の工業化が進み建材のほとんどが工場で加工され、現場ではシステムに則って組み立てる作業が主流となり、生産の合理化と引き換えにもの本質をとらえたものづくりができる現場技術者が少なくなっている。大工技能学科は、建築のプロとして必要な知識・技術をバランスよく学びながら、大工技能を身につけることを通して、ものづくりの姿勢を身につけ、業界で活躍しその発展に貢献できる人材の育成を目的とする。その実現のために、学びを深める中で知識・技術だけでなく「真の仕事力」を養い、主体的に意思決定と行動ができるよう教育を行う

2. カリキュラム編成

大工技能学科では、卒業認定及び専門士の称号授与のために、基幹科目及び専門科目に加えて、必要とする科目を体系的に編成し、科目に応じて授業形態を講義、実習に分ける。基幹科目は、建築計画・法規・構造・施工等、あらゆる建築のプロに必要な専門基礎知識の修得を目指す。専門科目は、実習を通して大工技能（道具の扱い方・木材加工技術・規矩術・木造軸組みの組立等）及び建築設計等の知識・技術の修得を目指す。専門科目は、必修科目・選択科目から成り、とりわけ必修科目である設計製図、建築製図、建築技能

実習は、知識・技術だけでなく「技術者マインド」、「ことばの力」の強化とも関連し、「真の仕事力」を育成する本校の教育目的の軸となるものである。専門科目（必修科目・選択科目）では1年次前期から2年次後期まで、大工技能の知識・技術を段階をおってその専門性を深める。2年次後期には各自の専攻領域に応じた卒業制作をおこない2年間の学びの集大成とする。

建築設計学科

1. 教育目的

建築設計学科は、社会人や大学・短大・専門学校卒生、その他高校卒業後、様々な経験をしてきた方々（リカレント生）を対象とする学科であり、建築設計を中心に建築のプロとして必要な知識・技術をバランスよく学びながら、段階を追って自身の専門性を定め、業界で活躍しその発展に貢献できる人材の育成を目的とする。その実現のために、学びを深める中で知識・技術だけでなく「真の仕事力」を養い、主体的に意思決定と行動ができるよう教育を行う。

2. カリキュラム編成

建築設計学科では、卒業認定及び専門士の称号授与のために、基幹科目及び専門科目に加えて、必要とする科目を体系的に編成し、科目に応じて授業形態を講義、実習に分ける。基幹科目は、建築計画・法規・構造・施工等、あらゆる建築のプロに必要な専門基礎知識の修得を目指す。専門科目は、講義・実習を通して意匠設計や構造設計等の知識・技術の修得を目指す。専門科目は、必修科目・選択必修科目・選択科目から成り、とりわけ必修科目である設計製図と建築製図は、知識・技術だけでなく「技術者マインド」、「ことばの力」の強化とも関連し、「真の仕事力」を育成する本校の教育目的の軸となるものである。1年次後期からは、基幹科目、必修科目に加えて、選択科目から意匠設計、構造設計、木造設計等の専門の基礎を学ぶ。さらに2年次前期からは選択必修科目で意匠設計と構造設計の専門に分かれ、さらに専門性を深める。2年次後期には各専攻領域に応じたパーソナル・デザイン・プログラム（卒業制作）をおこない2年間の学びの集大成とする。なおこのパーソナル・デザイン・プログラムは建築系学科における卒業制作に相当するが、作品づくりそのものに重点を置くのではなく、リカレント学生それぞれの資質やこれまでの経験を振り返り、自分の将来の仕事や理想とするライフスタイルへとつなげるために課題を設定し制作を行うことが目的となっている。

(II部) 建築学科

1. 教育目的

夜間に建築を学ぶ人たちのための学科である建築学科II部は、建築のプロとして必要な知識・技術をバランスよくかつ効率的に学び、業界で活躍しその発展に貢献できる人材の育成を目的とする。その実現のために、学びを深める中で知識・技術だけでなく「真の仕事力」を養い、主体的に意思決定と行動ができるよう教育を行う。

2. カリキュラム編成

建築学科では、卒業認定及び専門士の称号授与のために、基幹科目及び専門科目に加えて、必要とする科目を体系的に編成し、科目に応じて授業形態を講義、実習に分ける。基幹科目は、建築計画・法規・構造・施工等、あらゆる建築のプロに必要な専門基礎知識の修得を目指す。専門科目は、講義・実習を通して計画・設計や構造の知識・技術の修得を目指す。専門科目は、必修科目・選択必修科目・選択科目から成り、とりわけ必修科目である設計製図と選択必修科目であるプランニングは、知識・技術だけでなく「技術者マインド」、「ことばの力」の強化とも関連し、「真の仕事力」を育成する本校の教育目的の軸となるものである。1年次前期から2年次後期まで、段階をおって建築の知識・技術の専門性を深める。

建築士専科

1. 教育目的

建築士専科は、二級建築士資格試験の受験資格のある者を対象に、国家資格である二級建築士の免許取得とともに、社会や建設業界で必要とされる知識や技術の修得をするよう教育を行う。また、資格試験の合格のみを目指すのではなく、学びを深める中で「真の仕事力」を養い、主体的に意思決定と行動ができるよう厳しく教育を行う。

2. カリキュラム編成

建築士専科では、二級建築士資格試験およびその他資格試験の合格、並びに社会や業界で必要とされる知識や技術の修得をするよう、必修科目及び選択科目を体系的に編成し、科目に応じて授業形態を講義、実習に分ける。必修科目では、二級建築士資格試験の受験対策に重点をおく。各科目とも講義理解、課題演習・復習を徹底し、繰り返し模擬試験を実施する。その中で学生自身がそれぞれの問題・課題に自主的に取り組む姿勢をつくり、全員が二級建築士資格試験合格をめざせるよう指導する。選択科目では、二級建築士以外の資格試験（危険物取扱者乙種4類、2級建築施工管理技士（学科）、建築積算士補等）の合格をめざし、その他実務にかかわる教育を行い、資格取得と共に「真の仕事力」を強化して卒業をめざす。

単位認定の方針

カリキュラムポリシー、並びに以下の履修規定（第1条「授業科目」～第8条「卒業証書」）に基づいておこなう。
 なお、第5条「単位の認定」についての認定基準の詳細は、科目ごとに作成しているシラバスによって示す。
 また、科目外のその他の単位認定については、本章に示す通りとする。

履修規定

第1条 授業科目

工業専門課程各学科の授業科目は下表の通りである。

ロボット・機械学科

1年	分野	科目	週時間数		単位数
			前期	後期	
必修科目		基礎製図	4	4	4
		CAD実習Ⅰ	4	4	4
		製作実習基礎	8		4
		(小計)	16	8	12
選択必修科目	ロボット 機械	製作実習Ⅰ		8	4
	電気 機械	製作実習Ⅰ		8	4
	(小計)		8	4	
選択科目		コンピュータ概論	2	2	4
		工業数理	2		2
		材料力学Ⅰ	2		2
		図学	2		2
		電気概論	4		4
		工業材料	2		2
		材料力学Ⅱ		2	2
		加工技術		2	2
		要素設計		2	2
		電子回路		2	2
		ソフトウェア概論		2	2
		テクニカルイラスト		2	2
		流体力学		2	2
		(小計)	14	16	30
キャリアデザインⅠ	2	2	4		
企業研修			(2)		
特別講座			(4)		
1年次合計	32	34	50		

2年	分野	科目	週時間数		単位数
			前期	後期	
必修科目		CAD実習Ⅱ	4	8	6
		総合制作実習		4	2
		卒業制作		(4)	2
		(小計)	4	12	10
選択必修科目	ロボット	製作実習Ⅱ	8	8	8
	機械 技能	製作実習Ⅱ	8	8	8
	電気	製作実習Ⅱ	8	8	8
(小計)	8	8	8		
選択科目		機械設計Ⅰ	4		4
		センサ技術	2		2
		プロダクトデザイン概論	4		4
		CAD応用論	4		4
		マイコン制御概論	2		2
		ロボット概論	2		2
		機械設計Ⅱ		4	4
		熱力学		2	2
		産業機械		2	2
		機械力学		2	2
		工業英語		2	2
		(小計)	18	12	30
		キャリアデザインⅡ	2	2	4
		企業研修			(2)
特別講座			(4)		
2年次合計	32	34	52		
1、2年次総合計	64	68	102		

進級条件
1年次必修科目12単位
1年次選択必修科目4単位
1年次選択科目の中から20単位以上
総合計36単位以上

卒業条件
2年次必修科目10単位
2年次選択必修科目8単位
1、2年次選択科目の中から合計40単位以上
キャリアデザインⅠ又はⅡのいずれか4単位必修
総合計78単位以上

*一部変更することがある。

(I部) 建築学科

1年次	分野	科目名	週時間数		単位数		
			前期	後期			
専 門 科 目	必修科目	設計製図Ⅰ	4	4	4		
		建築製図Ⅰ	4	4	4		
		CAD設計製図Ⅰ		4	2		
		計画実習	2	2	2		
		(小計)		10	14	12	
	選択必修科目	設計	設計専攻A		4	2	
			設計専攻B		4	2	
			施工専攻A		4	2	
			施工専攻B		4	2	
		設備	設備専攻A		4	2	
			設備専攻B		4	2	
		(小計)		0	8	4	
		選択科目	建築概論(造形論)	2		2	
			構造力学基礎	2		2	
			福祉住環境概論(不開講)	2		2	
	(小計)		6		6		
	基 幹 科 目	建築計画Ⅰ	2		2	※	
		建築計画Ⅱ		2	2		
		建築史Ⅰ	2		2	※	
		建築史Ⅱ		2	2		
		建築法規Ⅰ	2		2	★	
		建築法規Ⅱ		2	2		
		建築一般構造Ⅰ	2		2	★	
		建築一般構造Ⅱ		2	2		
		構造力学Ⅰ	2		2	★	
		構造力学Ⅱ		2	2		
情報処理論		2		2			
建築施工法Ⅰ			2	2	☆		
建築設備概論		2		2			
(小計)	14	12	26				
キャリアデザインⅠ	2	2	4	■			
企業研修			(2)				
特別講座			(4)				
1年次合計	32	36	52				

2年次	分野	科目名	週時間数		単位数		
			前期	後期			
専 門 科 目	必修科目	設計製図Ⅱ	4	4	4		
		建築製図Ⅱ	4	4	4		
		CAD設計製図Ⅱ	4		2		
		卒業制作		(4)	2		
		(小計)	12	8	12		
		選択必修科目	意匠	意匠設計Ⅰa	4		2
	意匠設計Ⅰb			4		2	
	意匠設計Ⅰc			4		2	
	意匠設計Ⅱa				4	2	
	意匠設計Ⅱb				4	2	
	構造		構造設計Ⅰa	4		2	
			構造設計Ⅰb	4		2	
			構造設計Ⅰc	4		2	
			構造設計Ⅱa		4	2	
	管理		管理実習Ⅰa	4		2	
			管理実習Ⅰb	4		2	
			管理実習Ⅰc	4		2	
			管理実習Ⅱa		4	2	
			管理実習Ⅱb		4	2	
			管理実習Ⅱc		4	2	
	技術		技術実習Ⅰa	4		2	
			技術実習Ⅰb	4		2	
			技術実習Ⅰc	4		2	
			技術実習Ⅱa		4	2	
			技術実習Ⅱb		4	2	
		技術実習Ⅱc		4	2		
	設備	設備実習Ⅰa	4		2		
		設備実習Ⅰb	4		2		
		設備実習Ⅰc	4		2		
		設備実習Ⅱa		4	2		
		設備実習Ⅱb		4	2		
	(小計)	12	8	10			
	選択科目	CAD設計製図Ⅲ		4	2		
		建築計画Ⅲ		2	2		
(小計)		0	6	4			
基 幹 科 目	建築環境工学	2		2	※		
	建築積算		2	2			
	建築材料学Ⅰ	2		2	◎		
	建築材料学Ⅱ		2	2			
	建築施工法Ⅱ	2		2			
	(小計)	6	4	10			
キャリアデザインⅡ	2	2	4	■			
企業研修			(2)				
特別講座			(4)				
2年次合計	32	28	40				
1、2年次総合計	64	64	92				

進級条件
1年次必修科目12単位
1年次選択必修科目4単位
1年次選択科目2単位
1年次基幹科目★※印欄の科目をいずれか必修とし その他の科目を含め
総合計34単位以上

卒業条件
2年次必修科目12単位
2年次選択必修科目10単位必修
1年次基幹科目☆印欄6単位必修
2年次基幹科目◎印欄4単位必修
1、2年次基幹科目※印の科目を8単位以上必修
■キャリアデザインⅠ又はⅡのいずれか4単位必修
その他の科目(■)を含め
総合計74単位以上

*一部変更することがある。

インテリアデザイン学科

1年次		科目名	週時間数		単位数
			前期	後期	
専門科目	必修科目	設計製図Ⅰ	4	4	4
		建築製図Ⅰ	4	4	4
		デザイン基礎実習	4	4	4
		インテリア概論	4	4	8
		CAD基礎実習		4	2
		(小計)	16	20	22
		選択科目	テクニカルⅠ	2	
	テクニカルⅡ		2		1
	(小計)		4		2
	基幹科目	建築計画Ⅰ	2		2
建築計画Ⅱ			2	2	※
建築史Ⅰ		2		2	※
建築史Ⅱ			2	2	※
建築法規Ⅰ		2		2	★
建築法規Ⅱ			2	2	★
建築一般構造Ⅰ		2		2	★
建築一般構造Ⅱ			2	2	★
構造力学Ⅰ		2		2	★
構造力学Ⅱ			2	2	★
情報処理論		2		2	☆
建築施工法Ⅰ			2	2	☆
(小計)		12	12	24	
キャリアデザインⅠ		2	2	4	■
企業研修				(2)	
特別講座				(4)	
1年次合計		34	34	52	

2年次		科目名	週時間数		単位数		
			前期	後期			
専門科目	必修科目	設計製図Ⅱ	4	4	4		
		建築製図Ⅱ	4	4	4		
		スペースデザインa	4	4	4		
		スペースデザインb	4	4	4		
		卒業制作		(4)	2		
		CAD応用実習	4	4	4		
		インテリア特論	4		4		
		(小計)	24	20	26		
		基幹科目	建築環境工学	2		2	※
			建築設備		2	2	※
建築材料学Ⅰ	2			2	★		
建築材料学Ⅱ			2	2	★		
建築施工法Ⅱ	2			2	★		
建築積算			2	2	★		
(小計)	6		6	12			
キャリアデザインⅡ			2	2	4	■	
企業研修					(2)		
特別講座					(4)		
2年次合計		32	28	42			
1、2年次総合計		66	62	94			

進級条件
1年次必修科目 22単位
1年次選択科目 1単位
1年次基幹科目★※印欄の科目をいずれか必修とし その他の科目を含め
総合計 35単位以上

*一部変更することがある。

卒業条件
2年次必修科目 26単位
1年次基幹科目☆印欄 4単位必修
2年次基幹科目★印欄の科目をいずれか必修
1、2年次基幹科目※印の科目を 8単位以上必修
1、2年次基幹科目の合計 22単位以上
■キャリアデザインⅠ又はⅡのいずれか 4単位必修
その他の科目を含め
総合計 77単位以上

大工技能学科

1年次		科目名	週時間数		単位数	
			前期	後期		
専門科目	必修科目	設計製図Ⅰ	4	4	4	
		建築製図Ⅰ	4	4	4	
		建築技能実習Ⅰ	4	4	4	
		建築技能実習Ⅱ	4	4	4	
		建築技能実習Ⅲ	4	4	4	
		木構造設計製図	2	2	2	
		(小計)	22	22	22	
基幹科目		建築計画Ⅰ	2		2	※
		建築計画Ⅱ		2	2	
		建築史Ⅰ	2		2	※
		建築史Ⅱ		2	2	
		建築法規Ⅰ	2		2	★
		建築法規Ⅱ		2	2	
		建築一般構造Ⅰ	2		2	★
		建築一般構造Ⅱ		2	2	
		構造力学Ⅰ	2		2	★
		構造力学Ⅱ		2	2	
		情報処理論	2		2	☆
		建築施工法Ⅰ		2	2	
		(小計)	12	12	24	
キャリアデザインⅠ		2	2	4	■	
企業研修				(2)		
特別講座				(4)		
1年次合計		36	36	50		

2年次		科目名	週時間数		単位数	
			前期	後期		
専門科目	必修科目	設計製図Ⅱ	4	4	4	
		建築製図Ⅱ	4	4	4	
		建築技能実習Ⅳ	4	4	4	
		建築技能実習Ⅴ	4	4	4	
		建築技能実習Ⅵ	4	4	4	
		卒業制作		(4)	2	
		(小計)	20	20	22	
	選択科目	CAD設計製図Ⅰ	4		2	★
		CAD設計製図Ⅱ		4	2	
		(小計)	4	4	4	
基幹科目		建築環境工学	2		2	※
		建築設備		2	2	
		建築材料学Ⅰ	2		2	★
		建築材料学Ⅱ		2	2	
		建築施工法Ⅱ	2		2	★
		建築積算		2	2	
		(小計)	6	6	12	
キャリアデザインⅡ		2	2	4	■	
企業研修				(2)		
特別講座				(4)		
2年次合計		32	32	42		
1、2年次総合計		68	68	92		

進級条件
1年次必修科目 2 2 単位 1年次基幹科目★※印欄の科目をいずれか必修とし その他の科目を含め
総合計 3 8 単位以上

*一部変更することがある。

卒業条件
2年次必修科目 2 2 単位 1年次基幹科目☆印欄 4 単位必修 2年次基幹科目及び選択科目の★印欄の科目をいずれか必修 1、2年次基幹科目※印の科目を 8 単位以上必修 1、2年次基幹科目の合計 2 2 単位以上 ■キャリアデザインⅠ又はⅡのいずれか 4 単位必修 その他の科目を含め
総合計 7 4 単位以上

建築設計学科

1年次	科目名	週時間数		単位数		
		前期	後期			
専 門 科 目	必修科目	設計製図Ⅰ	6	6	6	
		建築製図Ⅰ	4	4	4	
		CAD設計製図Ⅰ		4	2	
		設計実習Ⅰ	4	4	4	
		(小計)	14	18	16	
	選択科目	構造力学基礎	2		2	
		図学	2		2	
		福祉住環境概論(不開講)	2		2	
		意匠設計特論		2	2	
		構造設計特論		2	2	
		建築概論		2	2	
		(小計)	6	6	12	
	基 幹 科 目	建築計画Ⅰ	2		2	※
		建築計画Ⅱ		2	2	
		建築史Ⅰ	2		2	※
		建築史Ⅱ		2	2	
		建築法規Ⅰ	2		2	★
		建築法規Ⅱ		2	2	
		建築一般構造Ⅰ	2		2	★
建築一般構造Ⅱ			2	2		
構造力学Ⅰ		2		2	★	
構造力学Ⅱ			2	2		
情報処理論		2		2	☆	
建築施工法Ⅰ			2	2		
(小計)	12	12	24			
キャリアデザインⅠ	2	2	4	■		
企業研修			(2)			
特別講座			(4)			
1年次合計	34	38	56			

2年次	分野	科目名	週時間数		単位数		
			前期	後期			
専 門 科 目	必修科目	設計製図Ⅱ	6	6	6		
		建築製図Ⅱ	4	4	4		
		CAD設計製図Ⅱ	4		2		
		設計実習Ⅱ	4		2		
		卒業制作		(4)	2		
		(小計)	18	10	16		
	選択必修科目	意匠設計	意匠設計Ⅰ	4		2	
			意匠設計Ⅱ a		4	2	
			意匠設計Ⅱ b		4	2	
		構造設計	構造設計Ⅰ	4		2	
			構造設計Ⅱ a		4	2	
			構造設計Ⅱ b		4	2	
	(小計)	4	8	6			
	選択科目	CAD設計製図Ⅲ		4	2		
		建築計画Ⅲ		2	2		
		建築構造学	2		2		
		建築士試験講座Ⅰ	2		2		
		建築士試験講座Ⅱ		2	2		
	(小計)	4	8	10			
	基 幹 科 目	建築環境工学	2		2	※	
		建築設備		2	2		
		建築材料学Ⅰ	2		2	★	
		建築材料学Ⅱ		2	2		
		建築施工法Ⅱ	2		2	★	
		建築積算		2	2		
		(小計)	6	6	12		
	キャリアデザインⅡ	2	2	4	■		
企業研修			(2)				
特別講座			(4)				
2年次合計	34	34	48				
1、2年次総合計	68	72	104				

進級条件
1年次必修科目16単位
1年次基幹科目★※印欄の科目をいずれか必修とし その他の科目を含め
総合計40単位以上

*一部変更することがある。

卒業条件
2年次必修科目16単位
2年次選択必修科目6単位必修
1年次基幹科目☆印欄4単位必修
2年次基幹科目★※印欄科目をいずれか必修
1、2年次基幹科目※印の科目を8単位以上必修
1、2年次基幹科目の合計22単位以上
■キャリアデザインⅠ又はⅡのいずれか4単位必修
その他の科目を含め
総合計80単位以上

(II部) 建築学科

1年次	科目名	週時間数		単位数		
		前期	後期			
専 門 科 目	必修科目	設計製図Ⅰ	4	4	4	
		構造力学基礎Ⅰ	2		2	
		構造力学基礎Ⅱ		2	2	
		プランニング基礎Ⅰ	2		2	
		プランニング基礎Ⅱ		2	2	
		(小計)	8	8	12	
	※選択科目	パース講座	2		2	
		CAD基礎講座	2		2	
		木構造特論	2		2	
		施工技術基礎講座	2		2	
		(小計)	8		8	
	基 幹 科 目	1群	建築計画Ⅰ	2		2
			建築計画Ⅱ		2	2
			建築史Ⅰ	2		2
建築史Ⅱ				2	2	
建築法規Ⅰ			2		2	
建築法規Ⅱ				2	2	
建築一般構造Ⅰ			2		2	
建築一般構造Ⅱ				2	2	
構造力学Ⅰ			2		2	
構造力学Ⅱ				2	2	
建築施工法Ⅰ				2	2	
情報処理論			2		2	
2群		建築基礎ゼミⅠa	1	1	1	
		建築基礎ゼミⅠb	1	1	1	
		建築基礎ゼミⅠc	1	1	1	
		建築基礎ゼミⅠd	1	1	1	
		建築基礎ゼミⅠe	1	1	1	
		(小計)	17	17	29	
企業研修				(2)		
特別講座				(4)		
1年次合計		33	25	49		

2年次	科目名	週時間数		単位数		
		前期	後期			
専 門 科 目	必修科目	設計製図Ⅱ	4	4	4	
		CAD設計製図Ⅰ	4		2	
		CAD設計製図Ⅱ		4	2	
		(小計)	8	8	8	
		選択必修科目	プランニングⅠ	4		4
	プランニングⅡ			4	4	
	構造特論Ⅰ		2		2	
	構造特論Ⅱ			2	2	
	卒業制作			(4)	2	
	(小計)		6	6	14	
	※選択科目	施工管理基礎講座	2		2	
		建築士講座Ⅰ	2		2	
		建築士講座Ⅱ	2		2	
		製図基礎Ⅰ	2		2	
		製図基礎Ⅱ	2		2	
		(小計)	10		10	
	基 幹 科 目	1群	建築環境工学	2		2
			建築設備		2	2
			建築材料学Ⅰ	2		2
			建築材料学Ⅱ		2	2
			建築施工法Ⅱ	2		2
			建築積算		2	2
2群		建築基礎ゼミⅡa	1	1	1	
		建築基礎ゼミⅡb	1	1	1	
		建築基礎ゼミⅡc	1	1	1	
		建築基礎ゼミⅡd	1	1	1	
		建築基礎ゼミⅡe	1	1	1	
		(小計)	11	11	17	
企業研修				(2)		
特別講座				(4)		
2年次合計		35	25	49		
1、2年次総合計		68	50	98		

※表中の「選択科目」は前期に時間が記されているが、長期休暇期間及び通年のいずれかの土曜日等を利用し単位取得する。

進級条件
1年次必修科目12単位 その他の科目を含め
総合計24単位以上

*一部変更することがある。

卒業条件
2年次必修科目8単位 2年次選択必修科目6単位必修 1、2年次基幹科目46単位必修 その他の科目を含め
総合計86単位以上

建築士専科

1年次	科目	週時間数		単位数
		前期	後期	
必修科目	建築計画Ⅰ	2		2
	建築計画Ⅱ	4		4
	建築一般構造Ⅰ	2		2
	建築一般構造Ⅱ	4		4
	建築法規Ⅰ	2		2
	建築法規Ⅱ	4		4
	建築施工Ⅰ	2		2
	建築施工Ⅱ	4		4
	構造力学・建築材料	4		4
	学科特論	6		6
	キャリアデザイン	2		2
	建築設計製図		12	6
	ビジネス講座		2	2
	(小計)	36	14	44
選択科目	特別講義（学外研修）		2	2
	建築デザイン講座		2	2
	建築積算講座		2	2
	2級建築施工管理技士学科講座		2	2
	危険物取扱講座		2	2
	(小計)	0	10	10
総合計	36	24	54	

卒業条件
必修科目 4 4 単位
選択科目 6 単位以上必修
総合計 5 0 単位以上

*一部変更することがある。

第2条 単位の算定

1. 講義・演習については、1時間の講義等に対して、2時間の準備のための学習を必要とするものとし、15～30時間の講義・演習をもって1単位とする。
2. 実験・実習及び製図の授業については、原則、学習はすべて実験室・教室等で行われるものとし30～45時間の実験又は実習をもって1単位とする。
3. 1年間継続する科目は、前期、後期試験を含めた学年末の成績審査に合格した上で所定の単位を与える。ただし半分の単位は与えない。
4. 半期（前期または後期）のみの科目は、試験を含めた学期末の成績審査に合格した上で所定の単位を与える。

第3条 履修の方法

1. 履修は各学科とも基本的に自動登録となっているため、履修申請をする必要はない。
※但し、建築学科、建築設計学科の選択必修科目については履修申請が必要となります。
それぞれの学科で必修科目、選択科目等、科目区分が決められているが、基本的に全科目を履修し単位を修得することが望ましい。
2. 不合格となった科目を再履修する時も自動登録となるため、履修申請をする必要はない。
3. 既に単位を修得した科目の成績評価を変更することはできない。
※外国人留学生については別に定める事項がある。

第4条 試験

1. 試験は、学期末試験およびその再試験および再履修試験、並びに中間試験を含むその他試験とする。
2. 学期末試験は、前期および後期末に授業時間内に行う試験をいう。

- ①時間割 前期、後期とも試験開始の約2週間前に掲示する。試験時間は下表のとおり。
ただし、科目により時間を延長することもある。

<Ⅰ部>

時限	時間
1時限	10:00～10:50
2時限	11:05～11:55
3時限	13:00～13:50
4時限	14:05～14:55

<Ⅱ部>

時限	時間
1時限	18:20～19:10
2時限	19:20～20:10
3時限	20:20～21:10

- ②教室での試験 次の各項の注意事項をよく読んで、正しい態度で受験すること。

- (1) 試験は必ず指定された教室、座席で受けなければならない。
- (2) 学生証は、必ず携帯しなければならない。忘れた場合は、事務室で仮学生証の交付を受けること。
学生証は、各試験時に机上にて提示すること。
- (3) 試験時間中は、携帯電話等の電子機器類の電源を切っておくこと。
- (4) 教科書・ノート・電卓等は、科目担当の教員が認めない限り使用できない。
- (5) 試験開始後25分を経過しても入室していない場合は受験できない（25分以内の遅刻は認める）。試験開始後25分以内は、答案の提出及び退室はできない。
- (6) 答案用紙には、学籍番号、クラス、出席番号、氏名をはっきり書かなければならない（これらの記入がない答案は無効とする）。
- (7) 試験当日、不測の事態（交通機関の遅延、体調不良による通院等）により試験時間に間に合わない、受験できなくなったときはすみやかに担任までメールにて連絡を入れること。

- ③オンラインでの試験 次の各項の注意事項をよく読んで、正しい態度で受験すること。
- (1) 試験は必ず指定された方法で受けなければならない。
 - (2) 教科書・ノート・電卓等は、原則使用可能とする。
 - (3) 試験開始後25分を経過しても受験を開始しない場合は受験できない(25分以内の遅刻は認める)。
3. 再試験は、病気、忌引、災害、就職試験、交通機関の延着、仕事(II部のみ)によって学期末試験を受験できなかった者に対して行う試験をいう。
 4. 再試験受験希望者は所定の再試験受験願を指定の期日までに診断書(医療機関を受診した領収書や診療明細書などの写し可)又は当該事項を証明する書類を添えて事務室に提出して許可を得なければならない。申込みをした者に限り受験を認める。
※病気について、自宅療養等により医療機関を受診していない時は、原則認めない。
 5. 再履修試験は、前年度以前に不合格となった科目を再履修した者に対して行う試験をいう。
 6. 再履修試験は、学期末試験に準じた方法で行う。
 7. 再履修試験受験のほか、各科目担当教員の指示に従い単位に応じた学修を行った者のみが合否の判定対象となる。
 8. 中間試験は、前期および後期の中間期に授業時間内に行う試験をいう。試験の実施の有無や実施時期等は教科担当教員が指示をする。
 9. 中間試験以外のその他試験(小テスト等)も、授業時間内に行う。その実施方法、評価判定方法等については教科担当教員が指示をする。
 10. 建築士専科は学期末試験および中間試験を行わない。ただし、試験の必要があれば、随時その授業時間で実施する。

第5条 単位の認定

授業科目を履修し(原則として出席率が80%以上を履修と見なす)、その審査に合格したのものには、所定の単位を与える。審査は、各科目で定める方法による。

第6条 成績の評価

成績の評価は秀・優・良・可・不可の5種をもって表し、秀(100～90点)・優(89～80点)・良(79～70点)・可(69～60点)を合格、不可(59点以下)を不合格とする。なお、特別科目については、合格又は、認定とする。

第7条 単位修得の確認

単位修得および成績の確認は成績通知書による。

成績発表後一週間以内に疑義のある者は各科目担当者又は、事務室へ問い合わせること。

I部の学生の成績通知書は年2回(前、後期試験の成績発表後)保護者宛てに郵送する。

第8条 卒業証書

所定の修業年限に達し、卒業に必要な単位数を修得した者には卒業証書を授与する。

但し、学費未納の場合は、卒業証書を発行しないことがある。

又、修業年限2年の学科卒業者は学校教育法第131条の2及び学校教育法施行規則第186条に基づき、専門士(工業専門課程)と称することができる。

資格取得による単位認定

本校在学中に以下の資格を取得し、資格証明書のコピーと単位認定申請書を提出によって単位を認定する。
 上限は年次4単位。なお、単位認定の際、科目名は「特別講座」と記載する。

種別	資格等	建築系(Ⅰ部・Ⅱ部)	ロボット・機械	
国家資格	一級建築士	4単位		
	二級建築士	4単位		
	1級建築施工管理技士補(第一次検定)	2単位		
	1級建築施工管理技士(第二次検定)	2単位		
	2級建築施工管理技士補(第一次検定)	2単位		
	2級建築施工管理技士(第二次検定)	2単位		
	2級管工事施工管理技士補(第一次検定)	2単位		
	2級土木施工管理技士補(第一次検定)	2単位		
	2級造園施工管理技士補(第一次検定)	2単位		
	2級電気工事施工管理技士補(第一次検定)	2単位		
	技術士補	2単位	2単位	
	木造建築士	2単位		
	宅地建物取引士	2単位		
	測量士補	2単位		
	第三種電気主任技術者	4単位	4単位	
	第一種電気工事士	2単位	2単位	
	第二種電気工事士	2単位	2単位	
	基本情報技術者試験		2単位	
	ITパスポート試験		1単位	
	電気通信設備工事担任者(AI第一種,DD第一種)	4単位	4単位	
	電気通信設備工事担任者(AI第二種,DD第二種)	2単位	2単位	
	電気通信設備工事担任者(AI第三種,DD第三種)	1単位	1単位	
	甲種危険物取扱者	1単位	1単位	
	乙種危険物取扱者	1単位	1単位	
	二級ボイラー技士	1単位	1単位	
	マンション管理士	1単位		
	管理業務主任者	1単位		
	甲種消防設備士	4単位	2単位	
	乙種消防設備士	2単位	2単位	
	ガス溶接技能者	1単位	1単位	
公害防止管理者	1単位	1単位		
国家資格 (技能講習等)	アーク溶接	1単位	1単位	
	車両系建設機械運転3t以上(解体)	1単位	1単位	
	車両系建設機械運転3t以上(整地等)	1単位	1単位	
	高所作業車(10m未満)	1単位	1単位	
	小型移動式クレーン(1t以上5t未満)	1単位	1単位	
	小型車両系3t未満(整地等)	1単位	1単位	
	小型フォークリフト(1t未満)	1単位	1単位	
	縮固めローラー	1単位	1単位	
	玉掛	1単位	1単位	
	2級技能士	2単位	2単位	
	3級技能士	1単位	1単位	
	その他免許・技能講習・特別教育など	1単位	1単位	
	公的資格	福祉住環境コーディネーター2級	2単位	2単位
		福祉住環境コーディネーター3級	1単位	1単位
デジタル技術検定1級			4単位	
デジタル技術検定2級			3単位	
デジタル技術検定3級			2単位	
デジタル技術検定4級			1単位	
ビジネス能力検定2級		1単位	1単位	
ビジネス能力検定3級		1単位	1単位	
CADトレース技能審査中級		1単位	2単位	
CADトレース技能審査初級		1単位	1単位	
カラーコーディネーターアドバンスクラス		2単位		
カラーコーディネータースタンダードクラス		1単位		
色彩検定2級		2単位		
色彩検定3級	1単位			
民間資格	インテリアコーディネーター	2単位		
	MOS(エキスパート)	2単位	2単位	
	MOS(スペシャリスト)	1単位	1単位	
	3級機械設計技術者		4単位	
	家電製品エンジニア		3単位	
	家電製品アドバイザー		2単位	
	CAD利用技術者試験1級	1単位	2単位	
	CAD利用技術者試験2級	1単位	1単位	
	2級インテリア設計士	2単位		
	1級リビングスタイリスト	2単位		
2級リビングスタイリスト	1単位			

特別講座による単位認定

学校が指定する学校内外の特別講座・講演会・催事等に参加した上で、レポート等その他課題を提出し合格と判定された者に対して単位を付与する。なお、学校内での連続講座については、80%以上出席の上、試験等による判定を行う。

企業研修による単位認定

学校が指定する企業の企業研修（インターンシップ）に参加した上で、レポート等その他課題を提出し合格と判定された者に対して単位を付与する。なお、企業研修はやむをえない理由を除き、100%の出席を単位認定の条件とする。単位認定の際、科目名は「企業研修」と記載する。

大学・短期大学等で取得した単位の認定

大学及び短期大学等で取得した単位で、本校の科目に相当するものがあれば、単位認定を行う。単位認定を希望する者は、定められた期間に大学または短期大学等の成績証明書とシラバスを提出し申請を行う。尚、申請期間については掲示にて告知する。期間以外の申請は一切受け付けない。

※高等学校及び高等専門学校（高専）の1年～3年次で取得した科目の単位認定は行わない。

【注意事項】

本校では、在校生対象学費支援として、1年次の成績優秀者等に対し、2年進級時点で年間授業料の一部を免除している（「進級特待生制度」、p.74）。大学・短期大学等で取得した単位の認定申請をした場合は、大学での成績評価（「秀」「優」「良」「可」）は適用されずすべて「認定」として処理を行い、本校での成績評価（GPA）の対象外とする。本校での成績評価が必要な場合は、大学・短期大学等で取得した単位の認定申請をせずに、本校で改めて当該科目の履修をすること。

GPA について

GPA (Grade Point Average: グレード・ポイント・アベレージ) とは、履修科目の成績評価を GP (Grade Point: グレード・ポイント) に換算し、1 単位あたりの平均値を表したものである。GPA は、国際標準的な成績評価方法として、世界各国で広くつかわれており、日本でも多くの高等教育機関で導入されている。本校でも、特筆すべき学修成果を修めた者を進級特待生として選定する際の資料として活用しており、その他成績判定の資料として以前より導入してきたが、改めて 2019 年入学生より正式に導入している。GPA により、履修科目トータルの成績評価が数値として示されるため、学生にとっては総合的な学修到達度が把握しやすくなり、教員は学修指導の際の指標として活用できる。また、GPA は留学の際の学力判定の指標や国費外国人留学生の審査基準(延長申請)ともなるなど、国内外で国際的な成績評価基準となっている。

1. GPA の算出方法

① GP と評価 (評点)

判定	評価	評点	GP
合格	秀	100~90点	4
	優	89~80点	3
	良	79~70点	2
	可	69~60点	1
不合格	不可	59点以下	0

② GPA 計算式

$$\text{GPA} = \frac{\text{(GPA算出の対象科目の単位数} \times \text{GP) の合計}}{\text{GPA算出の対象科目の単位数の合計}}$$

③ GPA 計算例

科目名	単位数	評価	評点	GP	単位数×GP
設計製図Ⅰ	4	秀	95	4	16
構造力学Ⅰ	2	優	83	3	6
計画演習Ⅰ	2	良	76	2	4
CAD実習Ⅰ	4	可	64	1	4
図学	2	不可	48	0	0
合計	(a) 14	—	—	—	(b) 30
GPA	(b)30 ÷ (a)14 = 2.14 小数点第3位を四捨五入				

2. GPA 算出の対象科目・対象除外科目

①対象科目

履修登録した全授業科目 (不可及履修無効を含む)

②対象除外科目

- (1) 卒業要件の単位に含まれない科目
- (2) 大学・専門学校等で取得した単位の認定科目 (成績評価のないもの)
- (3) その他科目

※ (3) については、学科により取り扱いが異なるので、詳細は学科担当に問い合わせること。

3. 学期・年度 GPA と通算 GPA

学期・年度 GPA	特定の学期・学年に履修した授業科目を対象に算出する。
通算 GPA	入学時から現在までの履修した授業科目を対象に算出する。

4. GPA 対象科目の履修登録取消

GPA は、原則としてすべての履修科目により算出される。科目の受講を途中でやめた場合にも GP は 0 となり、GPA を下げることとなる。それを避けたい場合は、GPA 対象科目の履修登録取消ができる。履修が確定した GPA 対象科目について、授業開始から 4 週間後に、履修登録取消の手続きを行う期間が設定され、履修登録の取り消しを行うことができる。所定の手続きを行い履修登録を取り消した授業科目は、GPA の算出の対象にはならない。

ただし、以下の点には注意すること。

- ① 所定の手続きを行わないで受講を取りやめた場合は、GPA の算出の対象となる。
- ② 必修科目や基幹科目など、履修登録の取り消しができない科目がある。
- ③ 登録取消の期間や手続き等は、学科により異なる場合があるので、教員または事務職員に確認すること。
- ④ GPA 対象除外科目には適用されない。

5. 本校での GPA の活用（成績評価の客観的指標）

本校では、主として次の事項の参考資料として活用する。

- ① 学生の学修指導
- ② 進級特待生の選定（1 年次に特筆すべき学修成果を修めた者に対する奨学金制度、p.74）

【重要】 大学・短期大学等で取得した単位の認定での注意

大学・短期大学等で取得した単位の認定申請をした場合は、大学での成績評価（「秀」「優」「良」「可」）は適用されずすべて「認定」として処理を行い、本校での成績評価（GPA）の対象外とする。本校での成績評価が必要な場合は、大学・短期大学等で取得した単位の認定申請をせずに、本校で改めて当該科目の履修をすること。